

ネットワーク基幹研究プロジェクト地域研究推進事業
「南アジア地域研究」

中間評価報告書（第2次評価）

1. 総合評価

順調に進んでおり、質的・量的側面から特筆すべき成果が見られる

2. 総合所見及び特記事項

(総合所見)

「インド」研究ではなく、そこから一歩踏み出して本格的な「南アジア研究」として発展させることに成功しつつあると見受けられる。バングラデシュ研究会、スリランカ研究会、パキスタン研究会などに加え、ネパール・ヒマラヤ研究会なども活動している。小さな国でありながら特にネパールの存在感が大きい。しかしながら国際協力においては、ネパールのみならず幅広く周辺諸国と連携し、その結果、韓国、タイ、ヴェトナムなど周辺のアジア諸国における南アジア研究に大きな刺激を与えているように見受けられ、その点で国際貢献は大きい。

また、NGOと連携してインドで流域管理プロジェクトに参画するなどの実践活動を通じて社会貢献が行われていることも評価に値する。研究対象地域から何かを吸収するだけでなく、研究活動に対する地元の協力への感謝の意味を込めた社会貢献が強く望まれるところである。

(特記事項)

特に、優れている点

- ・「国際連携・国際発信」に関わり、「アジアにおける南アジア地域研究コンソーシアム」を通じて、他のアジア諸国における南アジア研究を牽引する、という点で重要な役割を果たしている。